

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専修学校 ビューティーモードカレッジ
設置者名	学校法人KBC学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
衛生専門課程	美容科	夜・通信	1851	160	
文化教養専門課程	トータルビューティー科	夜・通信	1427	160	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ上において公表 https://www.bmode.ac.jp/
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専修学校 ビューティーモードカレッジ
設置者名	学校法人KBC学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ上において公表
<https://kbcgroup.jp/public>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	令和2年4月 1日～令和5 年3月31日	学園運営に対する 助言・コンプライア ンス
非常勤	社会福祉法人理事	令和2年4月 1日～令和5 年3月31日	学園運営に対する 助言・コンプライア ンス
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専修学校 ビューティーモードカレッジ
設置者名	学校法人KBC学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>○教育課程編成計画 (カリキュラム)</p> <p>毎年9月に教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識・技術等や教育課程の方向性について意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度計画を策定。</p> <p>1月に第2回教育課程編成委員会を開催し、次年度の授業内容・方法の改善及び工夫点などについて意見交換を行い、学科の目標に照らして校長が編成する。</p> <p>○授業計画 (シラバス)</p> <p>上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後、内容を学科長にて確認し校長が決定とする。</p> <p>○確定したカリキュラム及びシラバスを学校HPにて公開し学生へその旨告知を行う (4月)</p>	
授業計画書の公表方法	URL : https://www.bmode.ac.jp/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>成績評価は、講義科目については、科目担当教員が確認テスト、評価テスト、受講状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習についてはレポート及び課題評価、受講状況によって評価し、実技については実技能力及び受講状況で評価する。卒業研究等については、研究態度及び成果発表、研究進行度を総合的に評価する。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載する。</p> <p>科目の出席状況の基準として80%以上を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 学習意欲の把握、試験やレポート、作品制作評価などの適切な方法により、履修状況及び学修成果に鑑み厳格かつ適正に評価する。 G P Aの算出式は下記に示す通りとする。 <1>試験得点に応じて5段階(3.0、2.0、1.0、0)の数値(グレード・ポイント)を設定する。なお、受講を途中でやめた科目や不合格となった科目はグレード・ポイントが0点となる。 <2>各履修科目のグレード・ポイントに、科目の時間数をかけた値を全履修科目分合算し、その値を全履修科目の時間数の合計で割ったものがG P Aとなる。 成績評価基準及びG P A算出方法を学校H Pにて公開し年度開始毎に学生へオリエンテーションにて開示を行う。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>URL : https://www.bmode.ac.jp/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。 卒業・進級の認定要件に達しているかどうかの履修状況及び成績評価の確認を学科長・教務部長が行い、校長が卒業を認定する。 学生へは年度開始毎にオリエンテーションにて開示し提示するとともにH Pでも公開を行う。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>URL : https://www.bmode.ac.jp/</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専修学校 ビューティーモードカレッジ
設置者名	学校法人KBC学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://kbcgroup.jp/public
収支計算書又は損益計算書	https://kbcgroup.jp/public
財産目録	https://kbcgroup.jp/public
事業報告書	https://kbcgroup.jp/public
監事による監査報告（書）	https://kbcgroup.jp/public

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報（1）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		衛生専門課程	美容科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2091 単位時間/単位	588 単位時間 /単位	30 単位時間 /単位	1953 単位時間 /単位	2571 単位時間/単位	
			2571 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		121人	0人	8人	4人	12人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>○教育課程編成計画（カリキュラム）</p> <p>毎年9月に教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識・技術等や教育課程の方向性について意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度計画を策定。</p> <p>1月に第2回教育課程編成委員会を開催し、次年度の授業内容・方法の改善及び工夫点などについて意見交換を行い、学科の目標に照らして校長が編成する。</p> <p>○授業計画（シラバス）</p> <p>上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後、内容を学科長にて確認し校長が決定とする。</p> <p>○確定したカリキュラム及びシラバスを学校HPにて公開し学生へその旨告知を行う（4月）</p>

成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>成績評価は、講義科目については、科目担当教員が確認テスト、評価テスト、受講状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習についてはレポート及び課題評価、受講状況によって評価し、実技については実技能力及び受講状況で評価する。卒業研究等については、研究態度及び成果発表、研究進行度を総合的に評価する。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載する。</p> <p>科目の出席状況の基準として80%以上を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。卒業・進級の認定要件に達しているかどうかの履修状況及び成績評価の確認を学科長・教務部長が行い、校長が卒業・進級を認定する</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>クラス担任制による個別の対応・ガイダンス、長期欠席者への補習授業を行っている。また保護者会等を実施し保護者との連携を図っている。臨床心理士によるスクールカウンセリングが可能な体制を調えている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
62 人 (100%)	0 人 (0 %)	58 人 (94 %)	4 人 (6 %)
(主な就職、業界等) (株)TONI&GUY JAPAN、(株)アッシュ、(株)ケンジ、(株)Champ、(株)Lee 沖縄ワタベウェディング(株)、(株)ワンスマネージメント (有)マリーインターナショナル 等			
(就職指導内容) 就職活動に関する授業、学園合同面接指導、学内企業説明会 キャリアコンサルタント及びキャリアサポーターによる就職相談 個別面接指導、ビジネスマナーの指導			
(主な学修成果(資格・検定等)) 美容師国家試験 47 名合格			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
120 人	8 人	6.6%
(中途退学の主な理由) 進路変更、勉強や将来の就職に対する興味の喪失等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個別ガイダンス、課外授業、奨学金制度の推奨、保護者との連携 臨床心理士によるスクールカウンセリング等		

①学科等の情報（２）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	トータルビューティー科	○	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1931 単位時間／単位	601 単位時間／単位	46 単位時間／単位	1710 単位時間／単位	単位時間／単位	単位時間／単位
			2357 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		61人	0人	4人	6人	10人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>○教育課程編成計画（カリキュラム）</p> <p>毎年9月に教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識・技術等や教育課程の方向性について意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度計画を策定。</p> <p>1月に第2回教育課程編成委員会を開催し、次年度の授業内容・方法の改善及び工夫点などについて意見交換を行い、学科の目標に照らして校長が編成する。</p> <p>○授業計画（シラバス）</p> <p>上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後、内容を学科長にて確認し校長が決定とする。</p> <p>○確定したカリキュラム及びシラバスを学校HPにて公開し学生へその旨告知を行う（4月）</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績評価は、講義科目については、科目担当教員が確認テスト、評価テスト、受講状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習についてはレポート及び課題評価、受講状況によって評価し、実技については実技能力及び受講状況で評価する。卒業研究等については、研究態度及び成果発表、研究進行度を総合的に評価する。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載する。</p> <p>科目の出席状況の基準として80%以上を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。</p>

卒業・進級の認定基準
(概要) 各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。卒業・進級の認定要件に達しているかどうかの履修状況及び成績評価の確認を学科長・教務部長が行い、校長が卒業・進級を認定する
学修支援等
(概要) クラス担任制による個別の対応・ガイダンス、長期欠席者への補習授業を行っている。また保護者会等を実施し保護者との連携を図っている。臨床心理士によるスクールカウンセリングが可能な体制を調えている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
20 人 (100%)	0 人 (0 %)	20 人 (100 %)	0 人 (0 %)
(主な就職、業界等) (株)ソシエ・ワールド (エステ)、TBCグループ(株) (エステ) 資生堂ジャパン(株)、(株)アルビオン (化粧品)、(株)エキップ (化粧品) (株)フリーネイル (ネイル)、(株)bosch 等			
(就職指導内容) 就職活動に関する授業、学園合同面接指導、学内企業説明会 キャリアコンサルタント及びキャリアサポーターによる就職相談 個別面接指導、ビジネスマナーの指導			
(主な学修成果 (資格・検定等)) Shu Uemura 技術検定 28 名 日本エステティック協会認定エステシヤン試験 20 名 JNE ネイリスト技能検定 3 級 28 名			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
55 人	9 人	16.4%
(中途退学の主な理由) 進路変更、勉強や将来の就職に対する興味の喪失等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個別ガイダンス、課外授業、奨学金制度の推奨、保護者との連携 臨床心理士によるスクールカウンセリング等		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
美容科	100,000 円	845,000 円	0 円	
トータルビュー ティー科	100,000 円	800,000 円	0 円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) URL : https://www.bmode.ac.jp/		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 当校の教育理念は、高度な技能技術を身に付け、人間性豊かな永久戦略となる人財を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現する為に必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員会を設置して、9項目 (①教育理念②教育の内容③教育の実施体制④達成度と教育効果⑤学生支援⑥社会的活動⑦管理運営⑧財務⑨改革・改善) を設定し評価する。評価結果については、校長および全職員にて共有し、責任者を中心に中期経営計画、次年度活動計画策定など次年度の学校運営に反映させる。併せて「自己点検評価・学校関係者評価報告書」をホームページ上において公開する		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
一般社団法人 JMA	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日	有識者
タカラベルモント株式会社	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
MS サポート	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日	保護者
株式会社 Champ	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日	企業等委員
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) URL : https://www.bmode.ac.jp/		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) URL : https://www.bmode.ac.jp/
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	
設置者名	

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		0人	0人	0人
内 訳	第Ⅰ区分	0人	0人	
	第Ⅱ区分	0人	0人	
	第Ⅲ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				0人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当し

たことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、高等 専門学校（認定専攻科を含む。）及 び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）			
修業年限で卒業又は修了 できないことが確定	0 人	0 人	0 人
修得単位数が標準単位数 の5割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の5割以下)	0 人	0 人	0 人
出席率が5割以下その他 学修意欲が著しく低い状況	0 人	0 人	0 人
「警告」の区分に 連続して該当	0 人	0 人	0 人
計	0 人	0 人	0 人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、高等 専門学校（認定専攻科を含む。）及 び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）			
年間	0 人	前半期	0 人	後半期	0 人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）
の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0 人
3月以上の停学	0 人
年間計	0 人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。